「発達の気になる子」アンケート調査結果報告書

令和3年8月 弘前市

目 次

- 1 調査概要・・・1
- 2 調査内容・・・1
- 3 調査対象及び調査方法等・・・1
- 4 調査依頼施設の内訳・・・2
- 5 年齢別人口と保育所等利用児童数・・・2
- 6 回答率・・・2
- 7 「発達の気になる子」とは・・・2~5
- 8 集計結果
 - 質問 I 施設の種類と定員について・・・5
 - 質問Ⅱ クラスの人数について・・・6
 - 質問Ⅲ クラスに、発達の気になる子は何人いますか・・・6
 - 質問IV 発達の気になる子について、保護者が理解している方は何人いますか・・・6
 - 質問V 「気づきのポイント」に該当する人数を記入してください・・・7~14
 - 質問VI 「発達の気になる子」への対応で困っていることを教えてください・・14~18
 - 質問VII 「発達の気になる子」への対応や支援で、今後必要なことやあったら 良いと思うことなどを教えてください・・・18~21
 - 質問VII 愛護手帳・精神手帳をお持ちのお子さん、障がい福祉サービスを 利用しているお子さん等の有無及び人数をお知らせください・・・22
 - 質問IX 弘前市保育所等巡回サポート事業を利用している保育所等への質問・23~28
- 9 アンケート集計結果からの現状と課題について・・・28~30

1 調査概要

市では、就学前に適切な支援を開始し、子どもの健やかな心身の発達を促すとともに、子育てに関する不安解消の一助とすることを目的に、弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座の協力のもと、平成25年度から5歳児発達健康診査・相談事業を実施、平成28年度からは手帳を持たない発達の気になる段階から支援する子どもの発達サポート事業を実施し、発達障がいの早期把握・早期療育に努めています。

「発達の気になる子」の状況については、平成27年度に日頃から多くの子どもや保護者と接する機会が多く、子どもの現状を把握している市内保育所・認定こども園等に対しアンケート調査を実施して把握に努めましたが、その後5年が経過していることから、現在における保育所等の状況を把握し、適切な療育支援のために今後備えるべき市の機能や体制を検討することを目的としてアンケート調査を実施したものです。

2 調査内容

このアンケート調査では、子どもが乳幼児であるため、明確な診断がないが障害が疑われる場合や、集団場面における気づきのポイント(注1)が、障害によるものか環境のためなのか分かりにくい段階の乳幼児のことを「発達の気になる子」と定義し、保育所等における「発達の気になる子」の現状や課題等の把握を行いました。

※ (注1) 気づきのポイント例は、3~5ページに記載。

3 調査対象及び調査方法等

①調 査 対 象:市内の認定こども園、幼稚園、保育所(園)、認可外保育施設計 94施設(令和2年12月1日現在)

②調 査 方 法:郵送による配付・回収及び市役所窓口での回収

③アンケート回答者:施設長(普段一番身近で子どもに接している職員やクラス担任

などの意見を参考にするようお願いした。)

④調査基準日:令和2年12月1日現在の内容で記入を依頼

⑤調 査 期 間:令和2年12月23日から令和3年2月19日まで

(最終到達:令和3年3月29日分含む。)

4 調査依頼施設の内訳 (令和2年4月1月現在)

	認定こども園	幼稚園	保育所	認可外保育施設	計
施設数	34	7	41	12	94
定員数	2,653人	575人	3,011人	466人	6,705人
利用児童数	2,190人	394人	2,571人	287人	5,442人

[※]利用児童数は、弘前市に住所があり、認定こども園・幼稚園・保育所・認可外保育施設を 利用している児童の数。

5 年齢別人口と保育所等利用児童数 (令和2年4月1月現在)

単位:人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
年齢別人口A	966	1,035	1,138	1,209	1,163	1,190	6,701
利用児童数B	275	791	939	1,165	1,121	1,151	5,442
利用児童の 割合(B/A)	28.5%	76.4%	82.5%	96.4%	96.4%	96.7%	81.2%

6 回答率

	認定こども園	幼稚園	保育所	認可外保育施設	計
施設総数	34	7	41	12	94
回答施設総数	27	6	35	9	77
回答率	79.4%	85.7%	85.4%	75.0%	81.9%

7 「発達の気になる子」とは

アンケートでは、次の「気づきのポイント」が、障害によるものか環境のため なのか分かりにくい段階の乳幼児のことを「発達の気になる子」と定義しました。

【気づきのポイント】

	集団場面	気づきのポイント
1	人との関わり方	・ひとり遊びが多い、一方的でやりとりがしにくい ・おとなしすぎる、常に受動的 ・おとなや年上の子、あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊べない ※【0~2歳児】では ・他の子どもに興味がない、興味があるものを指差ししない、興味があるものを見せに来ない、など ※【3~5歳児】では ・他の子どもに興味がない、視線が合いにくい、興味があるものを指差ししない、名前を呼んでも振り向かない、挨拶ができない、など
2	コミュニケーション	・お話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い ・おしゃべりだが、保育士や指導員の指示が伝わりにくい ・話を聞かなければならない場面で離席が多い、聞いていない ※【0~2歳児】では ・発語が少ない、言われたことを理解していない、単語が言えない、など ※【3~5歳児】では ・2語文、3語文が言えず言葉の遅れがある、言われたことが理解できない、会話が続かない、オウム返しがある、独り言が多い、一方的に言いたいことだけ言う、など
3	イマジネーション・ 想像性	・相手にとって失礼なことや相手が傷つくことを言ってしまう ・友達がふざけてやっていることをとらえ違えて、いじめられ たと思ってしまう ・集団で何かをしている時にボーっとしていたり、ふらふらと 歩いていたりする ・急な予定変更時に不安や混乱したようすが見られる ※【0~2歳児】では ・模倣遊びができない、いつもと違うことに強く反応する、な ど ※【3~5歳児】では ・ごっご遊びをしない、新しい場所や人になれるのに時間がか かる、予定が変わると混乱する、など
4	注意・集中	・ひとつのことに没頭すると話しかけても聞いていない ・落ち着きがない、集中力がない、いつもぼんやりしている ・忘れ物が多い、毎日のことなのに支度や片付けができない ※【0~2 歳児】では ・名前を呼んでも振り向かない、耳が悪いのではと心配したこ とがある、など ※【3~5 歳児】では ・じっとしていられない、いつも体のどこかが動いている、話 を聞いていないように見える、など

5	感覚	・ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手 (聴覚) ・靴下をいつも脱いでしまう、同じ洋服でないとダメ、手をつ なぎたがらない (触覚) ・極端な偏食 (味覚・嗅覚など) ・揺れているところを極端に怖がる、すき間など狭い空間を好 む ※【全年齢】で ・大きな音や声が苦手、くるくる回るものを好む、触覚や前庭 覚など特定の感覚遊びに没入する、嫌な感覚を避けたがる、 など
6	運動	・身体がクニャクニャとしていることが多い、床に寝転がることが多い ・極端に不器用、絵やひらがなを書く時に筆圧が弱い、食べこぼしが多い ・運動の調整が苦手で乱暴に思われてしまう、大きすぎる声 ※【0~2歳児】では ・歩き始めが遅い、歩行が安定しない、発音がはっきりしない、など ※【3~5歳児】では ・走り方がぎこちない、うまく体を動かせない、作業に時間がかかる、絵や文字が何を描いたか伝わらない、姿勢が崩れやすい、など
7	学習	・話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い ・難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがなが書 けない ・図鑑や本を好んで読むが、作文を書くことは苦手 ※【0~2歳児】では ・絵本に興味がない、特定のことだけ記憶がいい、など ※【3~5歳児】では ・文字を読むことに関心がない、単語の発音を正確にできな い、体を使った言葉遊びができない、歌詞が覚えられない、 文字を書くことに興味がない、など
8	情緒・感情	・極端な怖がり ・ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい、思い通りにならないとパニックになる ・一度感情が高まると、なかなか興奮がおさまらない ※【全年齢】で ・頭痛や腹痛など体の不調の訴えがある、心配事が多くいつも 不安になる、落ち込みやすく、よく泣く、新しいことに直面 すると不安になる、怖がりですぐおびえる
9	生活関連(栄養)	・朝ご飯を食べてこないことがある ・肥満である、など

10	生活関連(睡眠)	・日中眠そうにしている・夜更かししている・朝寝坊する、など
11	虐待関連	・登園が不規則 ・体にあざがある、極端に痩せている ・保清ができていない ・児童相談所に相談したことがある、など
12	コロナウイルス関連	コロナウイルス拡大による行動制限に伴い、 ・子どもの情緒が不安定になった ・子どもの言動や行動が乱暴になった ・子どもが園に来なくなった、など

^{*「}気づきのポイント」は発達障害情報・支援センターウェブサイト「発達障害に気づく」より ※解説は乳幼児の発達評価尺度(Mchat、PARS-TR、SDQ、CLASP など)より抜粋

8 集計結果

以下は回答があった施設 計77施設の集計結果です。(令和2年12月1日現在)

質問 I 施設の種類と定員について

単位:か所

定員\種類	認定こども園	幼稚園	保育所	認可外保育施設	計
1~19人				5	5
20~39人	4	1	6	1	12
40~59人	4	2	6	1	13
60~79人	6		11	1	18
80~99人	7	1	7		15
100~119人	2	1	1	1	5
120~139人	1		3		4
140~159人	1				1
160~179人	2				2
230~249人		1			1
250~279人			1		1
計	27	6	35	9	77
定員合計	2,155人	540人	2,517人	339人	5,551人
利用児童数 合計	2,010人	420人	2,399人	256人	5,085人

[※]集計表の利用児童数は市外在住の児童を含む。

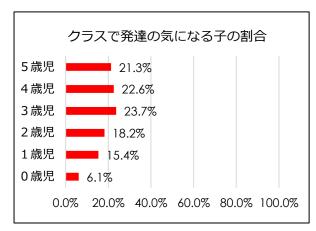
質問Ⅱ クラスの人数を教えてください。(4月生まれから翌年の3月生まれの人数)

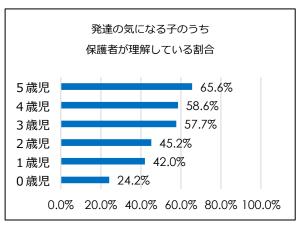
質問Ⅲ クラスに、発達の気になる子は何人いますか。また気になる子のうち、 診断のある子は何人いますか。(わかる範囲で結構です。) ・質問Vの「気づきのポイント」を参考にしてください。

質問IV 担当クラスの発達の気になる子について、保護者が理解している(気づいている・心配している・相談している等)方は何人いますか。 (わかる範囲で結構です。)

発達の気になる子の割合

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
II クラス 人数	537	725	861	1,018	950	994	5,085
Ⅲ 発達の気	33	112	157	241	215	212	970
になる子	6.1%	15.4%	18.2%	23.7%	22.6%	21.3%	19.1%
Ⅲのうち診断	1	10	21	46	45	80	203
のある子	3.0%	8.9%	13.4%	19.1%	20.9%	37.7%	20.9%
IV Ⅲのうち 保護者が理解	8	47	71	139	126	139	530
している子	24.2%	42.0%	45.2%	57.7%	58.6%	65.6%	54.6%





質問V 質問Ⅲに該当するお子さんの中で、「気づきのポイント」に該当する人数を、人数欄に記入してください。一人でも複数の行動が見られる場合は複数人数として記入してください。(Ⅲの数より多くなっても構いません。)

また、例にあてはまらない場合には、「その他」に具体的な気になる行動と人数を記入してください。

※複数回答式のため、単位は「ケース」としました。

集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
1 人との関わり方	461 _{ケース} 47.5% 割合は、発達の気になる子970人のうち、該当する児童の割合を示しています。	5 歳児 4 歳児 3 歳児 2 歳児 1 歳児 0 50 100 150
	・ひとり遊びが多い、 ・おとなしすぎる、*	3子」とは 気づきのポイント参照) 一方的でやりとりがしにくい 常に受動的 あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
2 コミュニケーション	・お話は上手で難しい ・おしゃべりだが、(5歳児 4歳児 187 3歳児 212 2歳児 135 1歳児 103 0歳児 26 0 50 100 150 200 250 3子」とは 気づきのポイント参照) いことを知っているが、一方的に話すことが多い 保育士や指導員の指示が伝わりにくい よらない場面で離席が多い、聞いていない、など

集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
3 イマジネーション・ 想像性	666ヶ-ス 68.7% 割合は、発達の気 になる子970人 のうち、該当する 児童の割合を示し ています。	5歳児 4歳児 3歳児 2歳児 1歳児 0 50 100 150 200
	・相手にとって失礼が ・友達がふざけてやってしまう ・集団で何かをしてい いたりする	3子」とは 気づきのポイント参照) なことや相手が傷つくことを言ってしまうっていることをとらえ違えて、いじめられたと思いる時にボーっとしていたり、ふらふらと歩いて不安や混乱したようすが見られる、など
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
4 注意・集中	759ヶ-ス 78.2% 割合は、発達の気になる子970人のうち、該当する児童の割合を示しています。 気づきのポイント (7 「発達の気になることでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	5 歳児 4 歳児 3 歳児 2 歳児 1 歳児 0 50 100 150 200 250
	3子」とは 気づきのポイント参照) 頭すると話しかけても聞いていない 集中力がない、いつもぼんやりしている 日のことなのに支度や片付けができない、など	

集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
5 感覚	420ヶ-ス 43.3% 割合は、発達の気になる子970人のうち、該当する児童の割合を示しています。 気づきのポイント (7 「発達の気になる	5 歳児 4 歳児 3 歳児 2 歳児 1 歳児 0
	・ざわざわした音に値 ・靴下をいつも脱いで がらない(触覚) ・極端な偏食(味覚 ・揺れているところな	敢感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手(聴覚) でしまう、同じ洋服でないとダメ、手をつなぎた
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位 : ケース)
6 運動	・身体がクニャクニ+ い	5歳児 133 4歳児 167 3歳児 174 2歳児 109 1歳児 65 0歳児 27 0 50 100 150 200 3子」とは 気づきのポイント参照) アとしていることが多い、床に寝転がることが多
	多い	やひらがなを書く時に筆圧が弱い、食べこぼしが で乱暴に思われてしまう、大きすぎる声、など

集団場面 7 学習	気づきのポイント に該当するケース 414ヶース 42.7% 割合は、発達の気 になる子970人 のうち、該当する 児童の割合を示し ています。	年齢別の分布 (単位:ケース) 5歳児 96 96 96 3歳児 109 66 1歳児 38 0歳児 9 0 50 100 150
	・話が流暢で頭の回動・難しい漢字を読むる・図鑑や本を好んで記	3子」とは 気づきのポイント参照) 伝が速いことに比べて、作業が極端に遅い ことができる一方で、簡単なひらがなが書けない 売むが、作文を書くことは苦手、など
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位 : ケース)
情緒・感情	・極端な怖がり ・ささいなことでも? ないとパニックにな	5歳児 108 117 1112 1112 1112 1112 1112 1112 1112

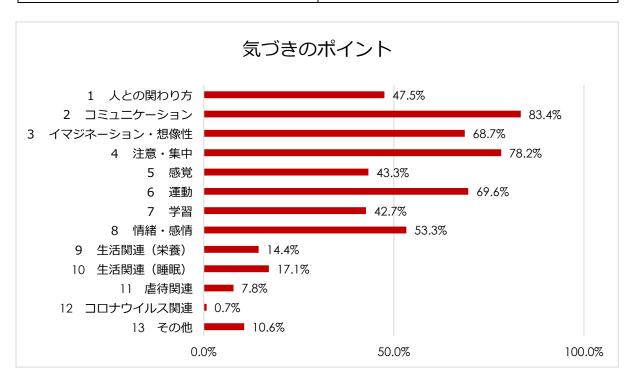
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
生活関連(栄養)	140ヶ-ス 14.4% 割合は、発達の気 になる子970人 のうち、該当する 児童の割合を示し ています。	5 歳児 4 歳児 3 歳児 20 3 歳児 29 2 歳児 1 歳児 0 50 100 150
	気づきのポイント (7 「発達の気になる ・朝ご飯を食べてこか ・肥満である、など	る子」とは 気づきのポイント参照) ないことがある
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
生活関連(睡眠)	166ヶ-ス 17.1% 割合は、発達の気になる子970人のうち、該当する児童の割合を示しています。 気づきのポイント (7 「発達の気になる・日中眠そうにしていき。・朝寝坊する、など	5歳児 44 4歳児 31 32 32 2歳児 35 1歳児 19 0歳児 5 0 50 100 150 3子」とは 気づきのポイント参照)

集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
11 虐待関連	7 6 ケース 7. 8% 割合は、発達の気になる子9 7 0 人のうち、該当する児童の割合を示しています。	5歳児 19 4歳児 20 3歳児 12 2歳児 14 1歳児 10 0歳児 1
	・登園が不規則 ・体にあざがある、 ・保清ができていない	
集団場面	気づきのポイント に該当するケース	年齢別の分布 (単位:ケース)
12 コロナウイルス関連		動が乱暴になった

		T			
集団場面					
集団場面 13 その他	気になる行動の具体・・特定の保育するには、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	5歳児			
	り小さい子に対して、まるでお人形遊びをしているような扱いをする 【3歳児】 ・鼻を鳴らすなどのチック症状【4歳児】 ・心配されたい、気を引きたいという気持ちが強く、平気でうそをつ く。また、うそだと気付かれても何もなかったように振る舞う 【5歳児】、など				

気づきのポイントに該当するケース数

合計	5,213ケース
気づきのポイントに該当する児童数	970人
一人当たりの該当ケース平均	5ケース

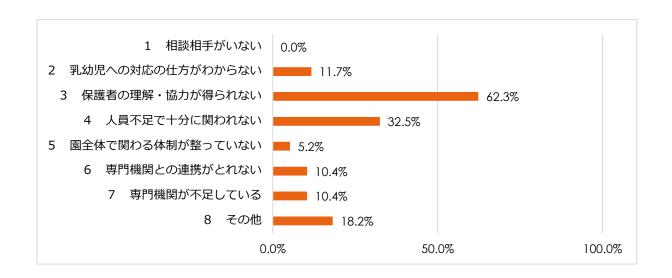


質問VI 「発達の気になる子」への対応で困っていることを教えてください。 (複数回答可)

「発達の気になる子」への対応で困っていること

※割合は、回答のあった77施設から寄せられた件数の率を示しています。

		件数	割合
1	相談相手がいない	0	0.0%
2	乳幼児への対応の仕方がわからない	9	11.7%
3	保護者の理解・協力が得られない	48	62.3%
4	人員不足で十分に関われない	25	32.5%
5	園全体で関わる体制が整っていない	4	5.2%
6	専門機関との連携がとれない	8	10.4%
7	専門機関が不足している	8	10.4%
8	その他	14	18.2%



「2 乳幼児への対応の仕方がわからない」に関連した意見

- ・危険行為(玩具の投げつけ、友達に抱きついて転倒させる、柵へ足をかける等)や、不衛生行為(よだれをわざと出し、柵や床、衣類に垂らす、ゴムなどをしゃぶる等)を何度も繰り返す。制止しても繰り返す。そうした行為を他児が真似してしまう。【1歳児】
- ・利き手(右)の動きがぎこちなくなり、時間が経つにつれて状態が悪化していった。給食では、お皿に手を添えることができない。利き手ではない左手で食事をするため、食べこぼしが非常に多い。左手のみで行おうとするため、衣類や履物の着脱も難しい。家庭でも同様の行動が見られるとのこと。検査はしたが、具体的な病名がつかず、異常なしの診断だった。保育の仕方にも不安が募る。【2歳児】
- ・子どもに合わせた対応をしていかなければいけないことを理解していても、関わり方や保育の仕方に行き詰まることがある。特性に応じた対応が十分できていないと思う。

「3 保護者の理解・協力が得られない」に関連した意見

- ・親が子どもの発達を理解していない。
- ・親との理解が出来ないと適切な指導が出来ない。
- ・保護者の理解がなければ先に進めないシステムの無力感。
- ・保護者から全く理解、協力が得られていないわけではないが、保護者と教師の捉え、考えに温度差がある。
- ・保護者の障害受容は年々受け止め方が変化してきている。他の子と比べる機会が減少して きた社会環境も影響していると思われるが、自分の子がどのような状況なのかを把握できて いない、『もしかして』と心配することすらできない保護者が多い。
- ・「小学校に行ったら大丈夫」と変な自信を持っている方が多いが、進学してから困ること の方が多いのが現実。保育園だから目立たないで生活できている部分も多いと思います。
- ・母親は理解しようと努力しているように見えるが、父親が理解しようという気持ちがない ため、次のステップへなかなか進むことができない。
- ・気になる事があり、保護者にお話してみるものの、この子の個性、マイペースとあまり気 にする様子がないケースが多い。

- ・気になる行動を保護者に伝えているが、親は理解していないのか目を背けているのかわからない。
- ・園では出来ていないことを保護者に伝えると気にならないのか、家では出来ていると話す。
- ・保護者に、集団における子どもの姿(家とは違う姿)の困難性が理解されにくい。 【2歳児】

「4 人員不足で十分に関われない」に関連した意見

- ・専門知識のある職員がいて欲しい。
- ・園児数により決められた職員数で毎日保育しながらも、さらに気になる子たちの対応もしなければならない。気になる子たちの対応に余裕をもっての指導ができない現実である。
- ・保育士1名に対しての子どもの人数は変わらないが、気になる子が増えている現状に、じっくり、ゆっくり、子どもたち(気になる子)へ向き合う(寄り添う)時間がない。
- ・気になる子にもアドバイスを参考に関わっていきたいが、人員不足で十分な関わりが出来 ていないのが現状。

「6 専門機関との連携がとれない」に関連した意見

・もっと密に専門機関と連携が取れたら助かります。

「7 専門機関が不足している」に関連した意見

- ・ことばの教室の予約がなかなか取れない。(混んでいるため)
- 発達外来がもっとあればよいと思う。

「8 その他」の内容

- ・担任は必死にアドバイスを受けて指導しているが、手ごたえがなく、堂々巡りで難しい。
- ・気になる子を入れての集団づくりの難しさ。
- ・発達の気になる子が保育室内を歩きまわったり、クルクルまわったり、急に大きな声を出したりした際、その都度、座って遊んだり、大きな声を出さなくても会話ができること等を伝えています。ですが、そのような行動が見られる特徴がある子どもなのであれば、毎日言い続けるだけでなく、見守ることも必要なのでは…と思います。ですが、まわりの子ども達は、発達の気になる子が約束事を守っていないのに、何で注意されないのか、自分たちばかり注意されるのはおかしい…と感じるのではと考えると、その都度伝え続けるべきなのだろうか…と悩んでいます。
- ・園での子どもの様子をどの程度まで保護者に伝えていいのか。言葉の選び方にもよると思うが、言われたことでショックを受けたり、反感を買うこともあるので、伝え方が難しいと感じている。
- ・職員によっては、支援するにあたって、対応の仕方が異なるため、どのように共通目的を持ち、関われば良いか悩む。※ケース会議などその都度行ってはいる。
- ・就学に向けての支援の仕方。
- ・保護者への協力の得方。
- ・職員同士の共通理解にばらつきがある。

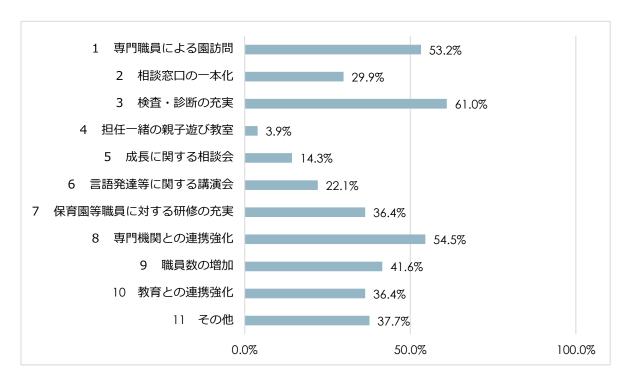
- ・専門的な知識を持った教員等の配置ができるような体制になって欲しい。 (どのような園でも)
- ・何が悪くて怒られているのか説明しても理解できない子の対処法。
- ・目で見ても理解できない子にはどうすればよいか。
- ・就学前の調査審議で家庭と園のチェックに差がありすぎると「集団で力を十分出せていない」という結果になり、支援に結び付かない。
- ・発達の気になる子に対し、1対1で十分な時間をとることができない。
- ・保護者へ子どもの様子を伝えた後に、どこへつなげることが適切なのか、また、伝え方に気を付けているが、正しく伝わっているのか不安になる。
- ・気になる子への接し方、関わり方。
- ・保護者からの相談がない場合の対応の仕方。
- ・巡回サポートを利用させていただき、不安に思うことや、悩んでいることなど具体的なお話をしていただき、今は特に困っていることはなく助かっております。
- ・ 園児の中に気になる子がいた場合の保護者への伝え方に悩んでいる。 【2歳児】
- ・全体への声掛けでは動けず、個々にひとつずつ何をするのか伝えなければならない。一人担任であるため、全体を進めつつ、その子を気にかけながらの保育となる。適切な接し方を知りたい。【4歳児】
- ・愛着関係が乏しい。 (親の子に対する関わり方が乱暴で、子がそのまま親の姿を見て育っている)
- ・相手の気持ちに気づきづらい。
- ・くるくる回ってみたり、とにかく体のどこかを動かすことが多い。
- ・切り替えが難しく、時間がかかることもある。
- 注意されたことを覚えていない。
- ・子ども自身、気に入らないことがあると乱暴になりトラブルを起こす。
- ・クラスの中で問題行動をするため、クラス全体が落ち着かない。
- ・多動症の子に対して、保育士が一人ついていないと危険だが、そのための職員は余分にいないため困る。
- ・診断がついたところで、障がいとは認められないため、他の子と一緒に保育することになるが、そこがとても大変。
- ・注意されると、後ろにひっくり返り頭を打つ。また、落ち着かず歩き回っているときの対応の仕方が知りたい。【1歳児】
- ・毎日の手洗いや挨拶等を、その都度2~3回声掛けするが理解していない様子である。また、遊びで興奮すると、奇声に近い声で表現するが、認め共感すべきか。【2歳児】
- ・集団での活動中にそれぞれの思いが主張し出すと、思いを大事にしたいが集団での活動ができなくなり、対応しきれず中断せざるを得ないことがある。【3歳児】

・2歳児頃から行動が気になり始め、場面に応じて対応しつつ、巡回サポートの方に相談し、今年度に入り、然るべき支援に向けて保護者に相談したが、ようやく就学支援相談に持ち込めるようになったものの、子どもの様子がここ数カ月でどんどん悪くなり、例えば、園外保育時、自分の思い通りにならないと寝転がって暴れ、場面での対応も万策尽きている。家庭でも自己中心が目立ちすぎて困っている様子。同クラス児への影響も大きく、組が落ち着かない。【年長児】

質問VII 「発達の気になる子」への対応や支援で、今後必要なことやあったら良いと思うことなどを教えてください。 該当する番号に〇をつけてください。 (複数回答可)

※割合は、回答のあった77施設から寄せられた件数の率を示しています。

		件数	割合
1 専	門職員による園訪問	41	53.2%
2 相	談窓口の一本化	23	29.9%
	査・診断の充実	47	61.0%
	任一緒の親子遊び教室	3	3.9%
	長に関する相談会	11	14.3%
6 言	語発達等に関する講演会	17	22.1%
	育園等職員に対する研修の充実	28	36.4%
	門機関との連携強化	42	54.5%
9 職	員数の増加	32	41.6%
10 教	育との連携強化	28	36.4%
11 そ	の他	29	37.7%



「11 その他」の意見(内容を関連する項目ごとに分けて記載しました。)

【保護者への支援に関連した意見】

- ・保護者が気軽に相談できる窓口を周知したり、保護者向けの講演会、勉強会の紹介を今まで以上にアピールしていけると良いと思う。 (ポスター掲示だけでなく、一人ひとりにお知らせを配布するなど)
- ・担任も保護者も参加できる親子遊びを望みます。
- ・保護者に気づいてもらう方法。
- ・保護者の理解または気づくきっかけづくり。
- ・保育士の知識、保護者も調べられるツールは充実している一方で、認められない保護者が多い。
- ・健診等での保護者に向けての「気になる行動」等の講演会を開催する。初めての子育てなどだと、何が気になる行動等か気づいていない場合もあるので。

【保育所等及び保育士等への支援に関連した意見】

- ・保育現場での困りごとや、保育や指導技術の支援について気軽に相談できる機関があると良い。
- ・研修会においても一般的な話しではなく、具体的な事例についてお話いただけると参考に なります。
- ・厚生労働省が定める保育士の数に限界を感じる。診断のついていない子で、気になる子が 増えている現場の実際の状況をふまえて設定して欲しい。

【相談窓口の充実に関連した意見】

- ・気軽に相談する機関が欲しい。
- ・発達の気になる子どもの相談窓口や療育機関の拡大。
- ・診断を受けたり、気になっても、窓口が狭く、時間がかかる。また、通いたくても定員がいっぱいのことが多い。
- ・教育委員会が主催していることばの教室等の支援教室を増やして欲しい。
- ・療育支援教室の質の充実。(保育園の延長だと意味がない)
- ・月齢・年齢に応じた成長に関する相談会の場があれば良い。
- ・身近なところで親子が気軽に発達相談等の専門的な支援が受けられたり、同じ悩みを持つ親同士が集まることができる場がもっと充実すると良いと思う。(コロナ禍では難しいが)

【検査・診断の充実に関連した意見】

- ・定期的な年齢ごとの発達検査、アンケートが行われている中で、任意ではなく義務化をし、受けていない家庭には再度受けるなど促しの連絡を入れて欲しい。
- ・5歳児健診を確実に行って欲しい。
- ・健診の機会を利用して保護者に働きかけて欲しい。(保育園から保護者に言いづらい)
- ・保護者との連携をスムーズにするためにも、専門機関の診断に対する説明を伺いたい。それと同時に、園での生活も聞いていただきたいです。
- ・診断の方法(基準)についても勉強したいです。
- ・5歳児健診の診断結果をもとに、保護者の理解を得ることができたり、その後の対応へと動くことができたりする子もいるため、もう少し早い時期や段階で診断結果が出るようになって欲しい。
- ・集団にいる時の様子をもっと見に来てもらいたい。
- ・「気になる」部分や項目が保護者に上手に伝わらないことが多いので、保護者への告知、 進言を第三者の専門職に依頼したい。
- 5歳児健診及び二次健診は希望者にせず、必ず受けるように変われば良いと思います。 (義務化)
- ・現在、5歳児発達健診は書面にて実施されていますが、乳幼児健診のように、任意ではなく必須とされた方が良いのではないでしょうか。
- ・2013年度から弘前市と弘前大学が、市内の5歳児全員を対象に行っている「発達健診」を、1歳6か月児健診や3歳児健診の際にも、保護者の他に、保育所等を利用している場合は担任保育士等がそれぞれの発達項目に答えてみるのはどうか。
- ・保育園や幼稚園に通っている子は、健診時に発達の気になる子の気づきのポイントチェックを一律に行えるようにして欲しい。(保護者が気づかない点も多いため)
- ・気になる子を健診で見つけたら、確認の電話があってもいいと思う。こちらも話を聞いてみたいです。
- ・気になる子が年々増加傾向にあると思います。3歳児健診と5歳児健診の間に4歳児健診があるといいのではないかと考えます。こまめな健診で子どもの困り感や保護者の育てにくさが軽減するのではないでしょうか。
- ・園で気になる子の行動等が3歳児健診の内容だけでは見つけられない現状がある。普段の様子が伝わるような方法で行えるようになったらいいと思う。
- ・家庭と集団の中では、子どもの様子が違う場合が多い。保護者の相談や面談だけでは見えない子どもの姿が分かるのではないかと思う。全員対象としなくても、健診で対応した専門機関の方々が必要だと感じた子どもだけでも、保育所等を利用している場合は、後日担任に追加で答えてもらうと良いと思う。
- ・発達健診(3歳)時、先生用のアンケートがあった方が良いと思う。
- ・「検査・診断の充実」にプラスして、園での様子を提出できるようにして欲しい。家庭だと環境の刺激が少ないが、園では刺激が多く、興味が次々と移る子の場合、医師は園での様子も知ったうえで考えていただきたい。
- ・3歳児健診でも5歳児と同様、保育園から提出する書類があってもいいと思う。集団になると目立つ子も多いという事実もあるので、1対1の関わりだけを見ても、ほんの一握りしか納得のいく結果が見られない。

【専門職員による巡回支援に関連した意見】

- ・保育所等巡回サポート事業で一人一人の子について具体的なアドバイスをもらえることが とても参考になります。
- ・専門職員の見解を知る機会。(園訪問時など)

【健診機関等、関係機関との連携に関連した意見】

- ・3歳児、5歳児の健診結果の共有。
- ・検査機関と保育園との連携強化。
- ・子どもの健診に異常があった場合は園にも知らせて欲しい。 (親に聞かなければ教えてくれないこともある。また、診断を受けたことがある人は、必ず園に知らせないと気付きが遅れてしまう。)
- ・転園の時の情報共有。
- ・検査、健診の結果の通知を保育園にも知らせて欲しい。
- ・就学先(小学校)とは、入学後、ほとんど交流がないので、こちらから提供している情報等が生かされているのか全くわからない。もう少し、入学後の情報交換の場もあればよいのではないか。(兄弟・姉妹がいることも多いので)。
- ・他の市町村では3歳児健診等でひっかかった場合、保護者だけでなく、その子が通っている幼稚園や保育所、こども園にも知らせていると伺ったことがあります。ぜひ、弘前市にもそのシステムを取り入れていただき、他の専門機関と連携し、より良い保育ができたらと思います。
- ・現状においては5歳児健診で発達について気になる項目があると教えてくれる保護者の方がごくわずかだがいる。ほとんどは全く教えてくれることもなく、保育園に検査結果を教えることは難しいとは思うが、少しでも早くに気づいてあげることで一緒に関わることができるのではないかと思っています。
- ・専門機関と保育園は園訪問等で繋がるが、その後保護者へと繋がらない。専門機関・保護者・保育園の3つが繋がることが出来ると良い。

【その他の意見】

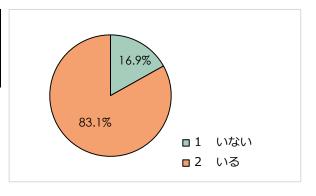
- ・今はインターネットからたくさんの情報を得ることができるが、情報が多いことで過度な 心配や、自己解釈につながっているように感じる。
- ・このアンケートに対して感じたことですが、ポイントと※印部分の内容が結び付かなかったので選択が難しかったです。
- ・保護者が気づいていないことが多々あるので、3歳児健診や5歳児健診の時も、気になる子を知らせ、行政がそれに基づいて健診をして、その結果は保護者に正しく伝えて欲しい。あいまいさは逆効果の時もある。

質問㎞ 受け持ちクラスに、愛護手帳や精神手帳をお持ちのお子さん、障がい福祉サービス(児童発達支援センター)を利用しているお子さん、また、ぴょんぴょん広場、ポッポ教室、ことばの教室などを利用しているお子さんの有無について番号に○をつけ、いる場合はその人数をお知らせください。(わかる範囲で結構です。)

手帳やサービスを受給しているお子さんや ことばの教室等を利用しているお子さんの有無

	施設数	割合
1 いない	13	16.9%
2 いる	64	83.1%
計	77	100.0%

※割合は、回答のあった77施設から寄せられた 件数の率を示しています。



障がい福祉サービス等名称	人数	備考
① 愛護・精神手帳を所持	25	診断がついている
② 児童発達支援センター	56	児童 81
③ 子どもの発達サポート事業	45	診断がついている児
④ 親子遊ゆう教室・のびのび子ども相談室	8	童及び気になる行動
⑤ ことばの教室	148	をする児童 237
⑥ その他	36	
計	318	

※回答のあった77施設の入所児童 計5,085人のうち、318人(6.3%)が該当

「⑥ その他」の内訳

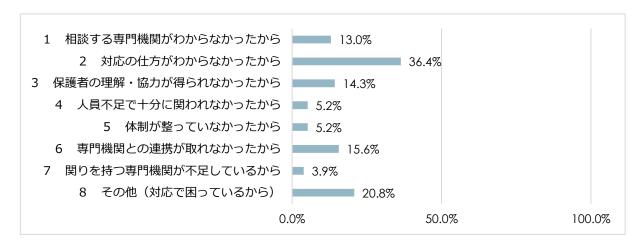
- ・医療機関(弘前大学病院、国立弘前病院ほか) 11人 ・児童発達支援事業所 11人
- ・あすなろ療育センター 1人 ・児童家庭支援センター 1人 ・ろう学校 1人
- ・不明など 11人
- ※①②は、障害福祉サービスを受給できる児童です。 (既に診断がついている児童)
- ※③④⑤⑥は、気になる段階の児童が通所できる施設です。237ケースは、保護者が既に教室や訓練等に通っていることがわかります。(重複して通所しているケースも含む。)

質問IX 発達に関する専門職員が保育園等を巡回して、施設の中でできる支援方法について助言等をさせていただく「弘前市保育所等巡回サポート事業」を利用している保育園等にお聞きします。

1 この事業を利用しようと思った理由を教えてください。(複数回答可)

※割合は、回答のあった77施設から寄せられた件数の率を示しています。

	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##		
		件数	割合
1	相談する専門機関がわからなかったから	10	13.0%
2	発達の気になる児童への対応の仕方がわからなかったから	28	36.4%
3	保護者の理解・協力が得られなかったから	11	14.3%
4	人員不足で十分に関われなかったから	4	5.2%
5	園全体で発達の気になる児童に関わる体制が整っていなかったから	4	5.2%
6	専門機関との連携が取れなかったから	12	15.6%
7	関りを持つ専門機関が不足しているから	3	3.9%
8	その他(気になる子への対応で困っていることがあったから)	16	20.8%



「8 その他」の内容

- ・気になる子の対応などは、研修等に参加し、勉強させてもらっているが、個々によって関わり方が違うので、適切なアドバイスを得たいと思った。
- ・気になる子の対応で困っていることがあったから。
- ・専門職の方と連携を取ることがさらなる成長に繋がると考えたから。
- ・職員の共通理解のため。
- ・場面、場面での対応の仕方をわかりやすく教えていただけるため。
- ・一人ひとりに合った関わり方をしたかったため。
- ・巡回サポートを利用し、専門機関と繋がることができました。集団での気になる子どもとの関わりで迷ったときや、悩んでいる保護者へアドバイスをするときなど、巡回のときだけではなく相談もでき、全職員でとても学ぶ機会となっております。

- 2 「弘前市保育所等巡回サポート事業」を利用してみて、保育はしやすくなりましたか?
 - **・はい 41件 ・いいえ 7件**

また、良かった点と悪かった点について、具体的に記入してください。

く良かった点>

- ・外部の専門機関を通して、子ども達への働きかけ等のアドバイスをもらうことで、より多くの提案が出来た。そのことで、子ども達の発達を促す上で良い方向にいけたことが大きいと思う。
- ・対応の仕方に「これでいいのかな」と不安になることもあるが、巡回の際に対応の仕方を 相談したり、実際見てもらい助言をいただけるのは大変心強い。
- ・様々な対応を細かく教えていただき、また、私たちでは保護者に対してお話できない部分 も第3者が一緒に相談に乗っていただきサポートしていただけることがとても良いと思って おります。
- ・園児、保護者との関わり方のアドバイスが多種多様に頂けるので、効果も現れるなど、非常に参考になっている。
- ・継続して園児の成長を見守り、支援してくれている。具体的に保育士にアドバイスをし、経過も把握し、安心して相談できている。
- ・気になる子が増加傾向にあるものの、保育士の中には、関わりに不安を持っている職員もおります。担任に的確にアドバイスを下さり、保育に見通しを持つことができています。
- ・子どもたちへの対応の仕方や考え方を教えていただいたり、疑問に思うことについて聞くことができる貴重な機会だと思う。
- ・具体的なアドバイスをいただき、保育に活かすことが出来た。
- ・困っていることを相談でき、改善に向かうことが出来た。
- ・対応の仕方に「これでいいのかな」と不安になることもあるが、巡回の際に対応の仕方を 相談したり、実際見てもらい助言をいただけるのは大変心強い。
- ・実践を交えながら、具体的に教えて下さり分かりやすかった。
- ・発達面に関わることで、細かに分析していただいたり、アドバイスをもらったりした。
- ・対応の仕方を助言してもらった。全体に話をしている時、対象の園児が話を聞いていない 様子が見られる時、名前を呼んで手を見せ、「ここを見てごらん」と集中させる。全体に話 をした後、個別に詳しく声掛けをするなど…。
- ・気になる子はもちろん、子ども全般においての捉え方やかかわり方を気軽に相談できる。
- ・気になる子に対して、良い面と気になる面と客観的に見ることができる。
- ・自分の保育(かかわり方)の見直しができる。
- ・気になる子への関わり方や親への話し方がわかった。
- ・気になる子に対する保育士の意識の目覚めと、その子への保育の振り返りになる
- ・情報を共有することで、同じ接し方ができ、子どもの困り感が軽減された。

- ・園では伝えにくいことを代わりに伝えてもらうことでスムーズに話が進むことがある。
- ・子どもの特性をすぐ見抜いて指導方法を提示してくれたこと。
- ・今の対応が合っているかがわかったこと。
- ・アドバイスを聞くことができた、また、施設の紹介があってよかった。
- ・その子に合った対応の仕方を教えてもらうことができた。
- ・年間を通して見て頂き、日常の中で気付けない成長点を見つけてもらうことができたこ と。
- ・対応を具体的に教えてくれるので、見通しを持って関わることができたこと。
- ・発達について相談しやすくなったこと。
- ・具体的な気になる子への対応の仕方や、別の視点から見た子どもの様子や姿、困り感などをアドバイスしてくださるところ。
- ・対象児への関わり方のポイントを理解することができた。
- ・専門の先生からの話(アドバイス等)だと、保護者の方も話を聞いてくれやすい。
- ・1、2年目の時は対応策などわかりやすいように話をし実践することができた。また、いろいろな対策を提案してくれた。
- ・関わり方の例を挙げてもらい、実践出来そうなアドバイスを聞くことが出来る。
- ・日々の保育の悩みを聞いてもらえる点。
- ・こちらの困っていることを(気になる子への対応)聞いていただき、いろいろな対応を教 えていただいた。
- ・以前は何人か気になる子がいたのですが、1人1人の対応の仕方を担任に話して下さった。
- ・実際に子どもの遊んでいる様子を見てもらい、様々な場面、様々な状況に合わせて具体的なお話を聞くことができ良かった。
- ・巡回指導を通して、職員が対応の仕方や関わり方について学ぶことができた。

<悪かった点>

- ・短い期間で何度も見に来てくれるとなお良い。
- ・年2回で、1回約2時間となると、「発達の気になる子」が増えてきている現状では、だいぶ絞って見ていただくことになる。仕方ないことだと理解しているが、せめて年3~4回来てもらえると、とても助かると思う。
- ・保護者に専門機関を紹介することはできるが、発達の気になる点を保護者が認めていないため、次につなげられない。
- ・年度ごとに事業所が変わると、また一からになってしまう。
- ・アドバイスをもとに実践してみたが、前回と違うことを言われ、人によって内容が違って くる(臨機応変に行なってみるが戸惑う)。

- ・3年目の時は毎回同じことを話すので、あまり効果が得られず意味がないのでは?と感じた。
- ・限られた時間内のため、より詳しく聞けないこともあった。
- ・特に対応とか変わることもなく(保育者も園児も)、逆に職員がサポートの方々に気を遣 うことがあったと思う。
- ・保育中に話をしているので、その間の保育(子どもの動き)が気になり、アドバイスに集中できない。
- ・アドバイスどおりにかかわっても変化が見られない。
- ・保育中の訪問で、保育が中断したり、部屋数が少ないので部屋の割り振りに困る場合もあり、もう少し短時間で的確なアドバイスをいただけたらと思う。
- ・以前は利用したこともあったが、対応の仕方は教えてもらった通り私たちもしています。 その次にどういったことをすればよいのか、その点を教えてもらいたかった。次のステップ のことはこの事業に関したことではないので、そこまでは無理かな?と思った。
- ・指導方法を実行してみたが効果があまり見られなかった。
- ・集団の中での対応について詳しく聞くことができなかった。
- ・アドバイスを参考に関わってきたいが、人員不足もあり、1対1での関わりが難しい。せっかくのアドバイスを十分に実践することが出来ない。
- ・その子によって手のかかる所も違うし、その場面を伝えてもうまく伝わらないため、アド バイスしてもらっても共有できない。
- ・はっきりとした対策がなく、今後の対応に困った。また、症状を勝手に決めつけて対応を 諦められたこと。
- ・色々提案を受けるが、「それは何回もやってみているが…」と思うことが多い。
- ・子どもと直接関わりをもっていただき、担任からの情報と一致するのか確認して欲しい。また、直接の指導をして欲しい。
 - 3 来年度も事業が継続するとしたら、利用を希望されますか?
 - はい 42件 ・いいえ 7件
 - 4 この事業内容に関して、ご要望等があればご記入ください。
- ・いつも親身に対応してくださり、とても感謝しています。
- ・事業を継続して欲しい。
- ・巡回回数を増やして欲しい。
- ・受け入れ人数を増やして頂けたら幸いです。
- ・気になる子をチェックし、指導してもらった場合、その場限りではなく、その子が3歳、5歳健診に行った時も、その子をチェックして欲しい。そのために園名や名前を把握しておいて欲しい。

- ・今年度に関しては、十分な対応を受けられなかったので特にない。
- ・こんな方法やグッズがある、というならぜひ実物を見せて欲しい。
- ・継続する上で巡回する事業所が変わらない方が、アドバイス、相談する上で子どもたちの成長過程の上でもよいと思う。
- ・令和2年度に開園したため、まだ巡回を実施できていない。来年度はぜひお願いしたい。
- ・専門機関と直接つながりが持てるような役目を担って欲しい。
- ・別の事業所が巡回するのであればしっかり引継ぎをしてもらい、個人の成長過程が継続して見ていけるようにして欲しい。(せっかく巡回してもらっているのに、その都度同じ話にならないために)(限られた時間を利用しているので)
- ・以前に事業を利用していたが、具体的な活動支援をもっとして欲しかった。
- 十分に満足している。
- ・園内で気になる子に対して、いろいろ対応しても保護者が受け入れてくれず療育へつなげることができないので、そちらの橋渡しなどを手伝っていただければと思うところがある。

<その他発達支援に関するご意見等について>

- ・保護者の「気になる子」への理解。
- ・保護者への伝え方、対応は一番悩むことである。
- ・園と保護者との理解度の違い。
- ・市の健診をきっかけに伝えることもあるが、園からのアプローチだけでは難しいケースも 多い。
- ・市、園、保護者で情報共有しながら進めていけると、より伝わりやすい(伝えやすい)のではないかと感じる。
- ・園の方からは、何も感じていない保護者に対しては言えないので、園の様子を(集団での様子を)伝えてくれる機関があったらいいと感じている。(個人で受ける健康診断では指摘されない子がいるため)。
- ・弘前市は巡回サポートや5歳児健診をするなど、発達支援には予算と時間をかけて、とても素晴らしいと思います。行政で健診をやっても、私たち保育者がその子にあった保育をしても、保護者が動かなければ何も始まりません。保護者を動かすには、気づかせるにはどうしたら良いのか、これは何年も前からあったことです。親を動かす、気づかせる、これを解決する術があったらいいなと感じます。
- ・市は5歳児健診を行っているが、その結果が園に伝えられていない。二次検査を受けたことさえ保護者からの情報のみというのが実情。検査結果を保育に生かすことがその子にとって最も良い方法だと考える。
- ・「気になる子」が入園を希望した場合、特別な事情が無い限り断ることができない。突然に入園し、診断もないまま受け入れることになる。子どもはもちろん保護者との情報交換も必要となり、教師、保育士の負担は増大している。発達支援センターの巡回指導が唯一園への支援となっている。
- ・保育、教育、療育の特長や個性を更に発展させる意味で、この3つの領域の連携を進めるべきだと思う。児童デイの役割や、学校、教育機関との情報共有等。

- ・3年前にサポート事業を利用しましたが、とてもよかったと思っています。今後も場合によっては利用していきたいと考えております。
- ・現在、2歳児で9名中3名が気になるお子さんです。これが3歳児になると、20名を保育士一人で保育する計算です。確かに気になる子の多いクラス、少ないクラスがあるので、バランスを取ってクラスを決めていますが、そこで、進級できないお子さんの保護者が納得しないケースもあります。
- ・保育の集団の中で、気になる子への関わり方の支援を、巡回時に実際に見せて欲しい。
- ・障害児保育をしている保育園でも、保育士を一人増やせない状況にある話も聞いています。現在、気になる子が増えている現状をもう少し現場に生かす人数設定を今は望んでいます。
- ・発達支援は、診断がつくと保護者に提案しやすい。実際の現場では、診断がつかない子どもにも気になる行動が見られ、保育士一人では、クラスをまとめることができず、困ることも多いので、児童の人数にかかわらず、保育士を配置できる環境が整えばいいと願います。

9 アンケート集計結果からの現状と課題について

I 現状について

【クラスに、発達の気になる子は何人いますか】(令和2年12月1日現在)

- ・回答のあった 77 施設、合計利用児童数 5,085 人のうち、970 人(19.1%)の 児童が「発達の気になる子」であると回答。そのうち 3 歳児が 23.7%と、高い 割合であった。
- ・また 970 人のうち、保護者が理解している(気づいている・心配している・相談している等)人数は 530 人(54.6%)であったことから、保護者の半数弱は理解していない状況であることがわかった。
- ・なお、今回のアンケートについては、施設により、また保育士等のそれぞれ の視点でわかる範囲で回答いただいたものであることを申し添える。

【発達の気になる子への対応で困っていること】 (上位3件)

- ①保護者の理解・協力が得られない
- ②人員不足で十分に関われない
- ③その他

【今後必要なことやあったら良いと思うこと】(上位3件)

- ①検査・診断の充実
- ②専門機関との連携強化
- ③専門職員による園訪問

【弘前市保育所等巡回サポート事業を利用しようと思った理由】(上位3件)

- ①発達の気になる児童への対応の仕方がわからなかったから
- ②その他(気になる子への対応で困っていることがあったから)
- ③専門機関との連携が取れなかったから

Ⅱ 課題について

今回のアンケート結果から、意見・要望等を大きく分類し、整理した。

1	保護者への支援	2	検査・診断の充実	3	保育所等への支援
4	専門機関との連携強化	5	専門職員による巡回支援	6	相談窓口の充実

1 保護者への支援について

- ・回答によると、「保護者の理解・協力が得られない」ことが、「発達の気になる子」への対応で、最も困っている状況であること。
- ・そのほか、保育所等と保護者との理解度の違いにより、「発達の気になる子」 への関わり方等について、保育所等の現場では認識の隔たりのため支障があるこ と等の意見があり、保護者の理解・協力が得られるような対策が必要と考える。

2 検査・診断の充実について

- ・回答によると、「検査・診断の充実」が「今後必要なことやあったら良いと思うこと」で、最も多い意見であった。
- ・内容としては、5歳児健診等の際、保育所等での様子も診断に反映させるような仕組みづくりや、保護者の理解や気づきを促すような働きかけを求める意見が多く、これまでの検査・診断の更なる充実が望まれている。

3 保育所等への支援について

- ・回答によると、「人員不足で十分に関われない」、「対応の仕方がわからない」、「発達の気になる子」の現場の実際の状況をふまえた保育士の人数設定を望むなど、保育所等の切実な意見が多かった。
- ・「対応の仕方がわからない」については、発達に関する専門職員が保育園等を 巡回して、支援方法について助言させていただく「弘前市保育所等巡回サポート 事業」を実施しているところであるが、上記の意見があることから、同事業の拡 充等や新たな対策の検討が必要と考える。

4 専門機関との連携強化について

- ・回答によると、「専門機関との連携強化」が「今後必要なことやあったら良い と思うこと」で、2番目に多い意見であった。
- ・内容としては、健診結果について保育所等にも情報共有していただき、専門機関と連携し、よりよい保育ができたら良いという意見や、専門機関・保育所等・保護者が連携し、情報共有しながら進めていけると良いのではなど、連携強化に関する意見が多く、保護者も含めた連携強化対策が必要と考える。

5 専門職員による巡回支援について

- ・回答によると、「専門職員による園訪問」が「今後必要なことやあったら良い と思うこと」で、3番目に多い意見であった。
- ・内容としては、「対応の仕方がわからない」、「職員の共通理解のため」のほか、職員が不安に思うことや悩んでいること等についてアドバイスしてもらい、安心して相談できているなど、専門職員による巡回支援について評価いただいている一方、時間や回数を増やして欲しい等の意見もあることから、更なる巡回支援の拡充等の検討が必要と考える。

6 相談窓口の充実について

- ・回答によると、「ことばの教室の予約がなかなか取れない」や、「発達の気に なる子」の相談窓口や療育機関の拡大など、相談窓口の充実に対する意見が見ら れた。
- ・内容としては、気軽に相談できる機関が欲しい、気になっても相談窓口が狭く、時間がかかる、定員オーバーで通えないなど、相談窓口の充実を要望する意見があり、既存の相談窓口の PR のほか、現状の相談窓口の機能・役割の明確化及び窓口機能の充実の検討が必要と考える。

「発達の気になる子」アンケート調査結果報告書

弘前市福祉部 障がい福祉課 TEL:0172-40-7036